
脱線

夜葉憂人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

脱線

【Nコード】

N1785Q

【作者名】

夜葉憂人

【あらすじ】

夜の電車の物語――。

暗闇に浮かぶ一筋の線路上を、電車が走っている。次々と現れては去っていく風景を、ひっそりと照らす。

車両は一つ。そこに、男が一人佇んでいるだけだった。

窓は寒さのせいか靄がかかったかのように白く曇り、中から外を眺めることは憚られた。月の明かりだけが微かに窺える。

男は空席に座ることなく、古びた吊革に手を掛け、ただ虚空を見つめている。窓に自分の顔が映ったのを見ると、数秒固まり、長い、溜め息をついた。その目に光は灯っておらず、口には落胆の色が浮かんでいた。

突然、男は笑い出した。

「アハハハハハッ」

空の車内に響く、湧いた笑い声。

「ハッハハ……はぁ」

すぐにそれも溜め息に変わった。男は吊革を持つ手を替え、呟く。

「これからどうしたものか……」

何処へ行くのか、目的地はまだ決まっていなかった。そして男自身、何故此処にいるのかさえ忘れていたのだった。

「どこまで逃げるの」

小さな囁くような声。

男が振り返ると、座席の片隅に、十くらいの少女が座っていた。幼い顔立ちとは裏腹に、その表情は凜としている。

「どこまで逃げるの」

少女は男を真っ直ぐ見つめ、繰り返す問う。

「逃げる……」

男はその言葉を反復した。そして気付く。自分が此処にいる理由を、思い出した。

「ずっと遠くまで。誰もいない、世界が私を貶めない、静かなところまで」

「なんで、逃げるの？」

男は口を噤む。言いづらいことだったからだ。

「なぜ逃げるの？」

少女は頑なに繰り返す。

やがて、沈黙に負けた男が口を開いた。

「人を殺したから」

答えた後、男は、年端もいかぬ子に聞かせるような言葉ではない、と後悔していた。

「そう」

しかし少女は表情も変えず、小さく頷いただけだった。

ガタン、と車両が大きく揺れた。男は体勢を崩し、慌てて吊革を持つ手に力を込める。

その様子がおかしく見えたのか、少女は初めて、小さく笑った。

それを見て、男は今更、この少女が奇妙に感じてきたのだった。

こんな夜に一人で、何処へ行くのだろうか。人を殺したと聞いて、何も感じないのだろうか。そう思うと、男は自然と口を開いていた。

「お嬢ちゃんは何処へ行くんだ？」

「わたしはどこへも行かない」

少女はすぐに答えたが、それは、少し的外れた答えだった。

「何処へも行かない？」

「そう」

男が反応しかねていると、少女は続けた。

「わたしは、ずっとここにいます」

その意志のある言葉に対して、男が深く考える事はなかった。代わりに、別のことを尋ねる。

「私が人を殺したと聞いて……怖くないかい？」

ふるふると、少女は首を動かした。

「怖くない」

男は信じられなかった。

「……どうして？ 君くらいの子なら、泣いて逃げるのが普通だと思うが」

「あなたは——」

男は耳を澄まして、少女の次の言葉を聞き取ろうとする。それは、耳を疑うものだった。

「あなたはもう——生きていないから」

「……生きてない？」

思わず男は聞き返してしまう。

少女は続けた。

「あなたが殺したのは、あなた。わたしはここで、あなたを見送るだけ」

少女の姿が、徐々に薄くなっていく。後ろの窓が透けて見えた。

「……君は！」

「これからあなたは選ぶ。この電車を降りるか、降りないか」

「……」

「あなたは……は、まだ——死んでいない」

そして少女の影は、完全に消えてしまった。

しばらくの静寂の後、男は前を向いた。そしてまた、白く曇った窓を見つめる。そこに映った顔は、先程よりも少し、晴れているようだった。

吊革を持つ手を替えると、男は呟いた。

「これからは、ずっと此処に居ることにしよう」

電車が揺れ、軋む音は、もう聞こえない。

車内を照らす淡い光が、月の光に溶けていった。

（後書き）

この小説は私の処女作を推敲したものです。
拙い文章で書かれた物語ですが、感想よろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1785q/>

脱線

2011年1月18日20時41分発行